

池田市内で活動する団体のイベント情報をお知らせします

**外遊びの会たんぽぽin池田** 絵本の選び方講座

・日時:2019年1月25日(月)10時～11時  
 ・場所:池田市立コミュニティセンター1階  
 ・内容:NPO法人「絵本で子育て」センターの講師による絵本の選び方講座  
 ・参加費:無料  
 ・申込み・問合せ先:外遊びの会たんぽぽin池田  
 (担当 ゲレンチェール ikedasotoaso@gmail.com)

**いけだんち** いけだんちカフェ

・日時:2019年1月25日  
 ・場所:池田市立3R推進センター(エコミュージアム)  
 ・内容:世代を超えた交流の場を作る『いけだんち』が、奇数月の第4金曜日にコミュニティカフェ『いけだんちカフェ』を開いています。誰かの家の縁側に腰掛けるように、どうぞお気軽にお越しください。コーヒーやお茶、プチおやつをご用意してお待ちしています。  
 ・講師:畑で朝ごはん 吉岡 博充さん  
 ・参加費:300円  
 ・問合せ先:いけだんち (ikedanchi.info@gmail.com)

**医療法人マックスシール 異病院** ヘルスプロモーション

・日時:2019年①1月26日(土)②2月23日(土)③3月23日(土)14:30～15:30  
 ・場所:異病院総合リハビリテーションセンター  
 ・内容:①猫背と肩こり ②姿勢と腰痛 ③歩き方と膝痛 運動できる服装で来院してください。  
 ・参加費:無料  
 ・申込み:不要  
 ・問合せ先:医療法人マックスシール 異病院(リハビリテーション科) TEL 072-763-5100)

**ママの働き方応援隊 大阪池田校** ママの働き方応援隊 赤ちゃん先生プロジェクト 説明会

・日時:①1月29日(火)②2月7日(木)③3月5日(火)10:00～11:30  
 ・場所:もぐもぐルーム 池田市栄本町10-14(こいし歯科向かい)  
 ・内容:「子育て中がメリットになる働き方を創る」ママの働き方応援隊の活動についてお話しします。  
 ・参加費:無料 お子様同伴歓迎  
 ・問合せ先:ママの働き方応援隊 大阪池田校 園部・田中 osaka-ikedamamahata.net 080-5003-7202

**池田古文書研究会 20周年記念講演会** 農民の近世民衆理想思想史 池田の歴史を見て「知らなかった 私たち先祖の強さ」

・日時:2019年2月17日(日)13:30～15:00  
 ・場所:池田市立コミュニティセンター2階大会議室(池田市栄本町9-1)  
 ・講師:神戸大学名誉教授 布川 清司 氏  
 ・参加費:無料  
 ・問合せ先:池田古文書研究会(担当:伊藤 TEL090-8520-1629)

**傾聴ボランティア「心の倉庫」** 八尾勝の傾聴公開講座 自己探求の心理学(第12回)

・日時:2019年3月5日(火)14:00～16:00  
 ・場所:池田市保健福祉総合センター4階  
 ・内容:危機からの脱出～意見の隔たりがあるとき、安易に妥協しないで非攻撃的に自己主張して共通理解(コンセンサス)を導くトレーニング  
 ・講師:臨床教育学博士・臨床心理士 八尾 勝 氏  
 ・参加費:資料代100円  
 ・問合せ先:傾聴ボランティア「心の倉庫」(担当:竹内 TEL072-763-2602)

**認定NPO法人 シニア自然大学校** 自然に親しむ講座 2019年4月開講 受講生募集!

・受付:定員になりしだい終了  
 ・場所:本校所在地・近畿圏の観察場所  
 ・内容:1年間コース・2年間コース  
 ・参加費:1年間コース年間 78000円 2年間コース年間 45000円  
 ・申込み・問合せ先:認定NPO法人シニア自然大学校 TEL06-6937-8077(平日10～16時) http://www.sizen-daigaku.com

情報誌トアエルは4月、7月、10月、1月(毎月10日)に発行予定です。イベント等の掲載やチラシの組み込みを希望される方は、発行前月の10日までに事務局へご相談ください。メールマガジンでは、団体のイベント情報の他、助成情報なども配信いたします。配信・掲載を御希望の方はinfo@toaer.jpまで必要事項をお知らせ下さい。●配信希望:氏名、所属団体名、電話番号、配信先メールアドレス●掲載希望:イベント名、主催、日時、場所、内容、参加費、申込み・問合せ先など

情報誌 **トアエル** 第4号(年4回発行)

発行所:いけだ市活動交流エンジン「トアエル」(池田市公益活動促進協議会)  
 発行日:2019年1月10日  
 デザイン:株式会社バード・デザインハウス  
 印刷:セイコープロセス株式会社  
 〒563-0058 大阪府池田市栄本町9-1池田市立コミュニティセンター内  
 TEL 072-750-5133 FAX 072-750-5125 e-mail: info@toaer.jp

QRコード:  <https://toaer.jp>

Facebook: 

**【募集】広告でトアエルを応援しませんか**

情報誌トアエルは、現在5,000部を発行しています。紙面の充実や増刷発行に広告を通じて応援いただける方を募集しています。また、広告等に優待のある団体賛助会員や寄付についても随時受け付けています。寄付は、いただいた金額と同額を池田市が公益活動基金に積み立てるマッチングギフト方式が採用されており、詳しくは事務局までお問い合わせください。

あなたと会える、みんなと和える

# トアエル toael



(絵札の字に一字ずつと文になります。正解は6ページの下。)

## いけだ市活動交流エンジン "トアエル"は1周年を迎えました

池田市公益活動促進協議会が愛称をトアエルとしてから1年が経ちました。ママスタッフという新たな戦力を得て、ますますパワーアップしたトアエルに今年もご期待ください。





# 楽しい!ためになる!が盛りだくさんの カレッジが11月にスタートしました

池田市のあれこれを楽しく学びながら交流するトアエルカレッジが11/10(土)にコミュニティセンターで開校しました。学長のトアエル三木会長あいさつの後、第1回『池田市のナゾ〜忍者と池田城を入口に知る池田市の歴史トリビア〜』を開催。池田郷土史学会会長の室田先生による講義のあと、池田市観光ボランティアの村上さんのガイドで大広寺〜池田城跡公園〜池田城の堀跡を歩いて巡りました。池田城跡公園では、なんと池田忍者甲賀

衆任駕がサプライズで大立ち回りを披露!学生の皆さんの華やかな笑顔が城跡公園に咲きました。第2回の『市外の人にも紹介したい!いけだのええトコをめぐる』では、いけだシニア探訪会の森本さんのガイドで旧細河小学校から久安寺まで、細河地区の名所10ヶ所を巡りました。道中では採れたての野菜を購入したり、不死王閣の食事に舌鼓を打ったりと、秋を存分に満喫。行く先々のお寺や神社でお参りしたので、参加いただいたみなさまは、きっとたくさんのご利益があるはず。カレッジ参加のみならず、楽しい学びの時間をありがとうございました!

## 第1回 池田市のナゾ〜忍者と池田城を入口に知る池田市の歴史トリビア〜 11/10(土)13:30〜16:00 参加者12名



## 第2回 市外の人にも紹介したい!いけだのええトコをめぐる 11/17(土)10:00〜14:00 参加者15名



残すは2講座  
単発でもご参加  
いただけます。  
どうぞ  
お見逃しなく!



ラスト2講座は『1/19(土)池田市で活躍する市民団体〜助成金活用講座〜』と、『2/9(土)都心に近くて自然が満喫できる池田市〜池田市で見られる生き物たち〜』。はじめてご参加されるかたもどうぞお気軽にご参加ください。皆様のご受講をお待ちしています。  
お申込み・問合せ先はトアエル(072-750-5133)まで。



# トアエル マーケットは 大・大・大盛況!!



## 25のブースと 10グループによるステージが 池田駅前公園を 熱気で包みました!

美しい秋晴れのなかで開催された『トアエルマーケット』。当日は晴天に恵まれ、絶好のイベント日和となりました。数え切れないほどのお客様にご来場いただき、『トアエルマーケット』だからこそ味わえるブースのあたたかさやステージの賑やかさが、公園中を笑顔でいっぱいにしていました。改めまして、会場にお越しいただいた方々へ心からの感謝を申し上げます。そして出店いただきました多彩なグループのみならず、設営から撤収までご協力いただき誠にありがとうございました。

## 西日本豪雨災害ボランティアを支援



『頑張れ真備町! IKEDA 応援隊!』代表の岩井志乃さん  
7月の豪雨で被災した倉敷市真備町の方々に支援物資を届ける『頑張れ真備町! IKEDA 応援隊!』(以下『応援隊!』)からの協力要請をうけ、トアエルでも物資提供を市民団体に呼びかけ、いただいた物資と義援金、池田市医師会にご提供いただいた医療機器を『応援隊!』にお届けしました。『応援隊!』から皆さまへのコメントが届きましたのでご紹介します。

この度は私たちの活動の主旨にご賛同頂き、倉敷市蘭小学校への支援物資のご提供、また義援金を賜り誠にありがとうございました。10月27日の支援物資配布の際には全77世帯、300名の方が参加され、大きな混乱もなく大盛況で終えることができました。『応援隊!』16名で、皆さんの温かい想いを被災者の心に届けることができ、直接多くの感謝のお言葉を頂きました。個人で始めたこの活動に、沢山の協力者が現れて大きく広がったことに対して大

きな可能性を感じました。この経験を活かし今後も活動を継続していきたいと思っています。本当にありがとうございました。



# 池田市でうわさのあの人にtoae1記者が 突撃インタビュー!



FILE 05

ほほ笑みの街プロジェクト  
小村 絹恵 さん



FILE 06

特定非営利活動法人  
ロジカ・アカデミー  
関愛 さん



## 多 様性を真に認め尊重できたなら 誰もが一市民として“ほほ笑み”あえる 街づくりができるはず

年齢や性別、“障がい”や“健常”によらず誰もが参加できる『イケダ大学』。主催する『ほほ笑みの街プロジェクト』代表の小村絹恵さんに、その想いを伺いました。

絹恵さんの  
こうなったら  
いいな



左からメンバーの森田さん、小村さん、場所を提供する「ぼんまい」山田さん



協力者でメンバーの中岡さん

### 社会参加に向けての支援を通して その人らしいライフスタイルの獲得を

-『Monday Caffè』+『イケダ大学』は  
どのようにスタートしましたか

先の上映会の発起人でピザ作りなどのスタッフとしても参加した当事者のかたが「病気への理解や社会的な協力があれば、自分たちも働いて自立できるかもしれない」と目を輝かせてたんです。これならできるだろうとあてがわれるのではなく自ら、進んで仕事をする・街に貢献することが、こんなにも人に希望を与えるのだと知りました。謝金はまだ少ないですが継続的にスタッフを務めていただけたらと、多くの方々の協力を得て『Monday Caffè』をオープン。地域の方を講師に招く『イケダ大学』を開校しました。健常者も当事者も一緒に楽しむ、小さくとも垣根のないコミュニティが実現しています。『精神病患者』と呼ばれる人々が、市民として働き、交流し、社会貢献できるよう、まずは集って対話することから始めたいと思います。



イケダ大学で毎月開催している『こどものつがく』の菱田 伊駒さん

差異を排除するのか、歩み寄るのか。多様性を認め尊重できるかどうかは、わたしたち各々の価値観で決まります。様々な価値観や思考に出会える『イケダ大学』を社会企業として主催しながら、開かれた新しい価値観や文化を醸成して、認めあつてほほ笑みあう街を創出していきたいですね。

個性と文化を尊重して認めあう  
「イケダ大学」を通じて  
人が孤立せず、豊かに繋がりがゆく街へ



#### <プロフィール>

小村 絹恵さん  
ほほ笑みの街プロジェクト代表、社会福祉士、精神保健福祉士、  
佛教学部社会福祉学部社会福祉学科非常勤講師、精神科病院・  
地域精神障害者支援施設勤務時代の2013年に市民活動『ほほ笑  
みの街プロジェクト』を池田市で立ちあげ。2016年9月から2017  
年8月まで複数回イタリア・トリエステ大学へ留学し、帰国後は全  
国各地から講演を依頼されている。障がい者と健常者の交流を  
めざして『Monday Caffè』+『イケダ大学』を主催。差異を認めあ  
うコミュニティの形成に尽力している。

#### <インフォメーション・問合せ先>

ほほ笑みの街プロジェクト  
TEL / 080-6912-5518  
MAIL / kinue1208@gmail.com  
Facebook / 「ほほ笑みの街プロジェクト」検索

#### <トピックス>

『Monday Caffè』+『イケダ大学』  
『Monday Caffè』の時間内を中心に実施する『イケダ大学』では  
様々な講義を予定しています。詳しくは団体フェイスブックをご  
覧ください。

## す べての子どもに 自力で羽ばたくための翼を



### 貧しい学生時代が原点 子どもたちが自力で 羽ばたくための教育をめざして

-ITやプログラミングを志したきっかけは?

経済的に貧しい学生時代に「家族の助けになりたい」と思い、将来性を感じたプログラミングを学び始めました。バイトで貯めたお金でPCを買い、本を読み漁って何度も挫折しそうになりながら独学で勉強しました。とにかく実績を積もうと18歳で起業、IT系の企業にかたづけしからメールで営業し、アプリ開発やWEB制作を仕事として請け負いました。やっと手応えを感じ始めた19歳の頃、情報処理推進機構の『未踏ソフトウェア創造事業』を知り、当時まだ珍しかったメールアプリの企画を提案。採択され半年かけて実際に開発し、その成果が認められて経産省の『天才プログラマー/スーパークリエイター』に認定されました。IT研修の講師として企業に招かれるようになると、スキルを人に与える喜びを感じるように。常々心にあった「子どもたちに自分と同じような苦勞をさせたくない、生きる力になる教育を実現したい」という思いが募り、縁のあった池田市で2017年にロジカ・アカデミーを設立しました。

### のびのびと学びながら 生きる力を身につけて 人生の可能性を広げてほしい

-現役の俳優や和菓子職人などロジカさんの  
魅力的なスタッフ陣に驚きました!

事務局長の小林は腹筋善之介という芸名で長年俳優・声優・脚本家として活動しています。他にも日本でiPhoneを最初に触った元ソフトバンク社員や教員経験者、有名和菓子店の職人、現役高校生プログラマーなどが在籍しています。みなさんロジカの理念に賛同している仲間です。スキルを身につけるには苦勞がつきものですが、様々な視点を持つ大人たちがサポートすることで、子どもたちの無限の可能性を刺激しながら総合的な人間力を培うことができると思うのです。自習空間の提供や様々なカルチャースクール運営なども行っており、多世代の方が、人生のいつからでも何かを学びべる環境作りにも力を注いでいます。2018年から池田市全公立小学校4年生のプログラミング教育を担当しているの、池田市を中心に関西のプログラミング教育水準を日本一にすべく、これからも奮闘していきます!



Googleがアフリカで1000万人の人々にオンラインスキルを教える計画を発表していますが、私たちもいつかそのようなことができれば、一人でも多くの人が将来の仕事と生活の安定を得られるように、質の高いICT教育を低価格で受けられる仕組みづくりを世界規模で進めていけたらと思います。

#### <プロフィール>

関愛さん  
特定非営利活動法人ロジカ・アカデミー理事長、経済産業省管轄の(独)情報処理推進機構認定「天才プログラマー/スーパークリエイター」、IT人材コンサルタント、システムエンジニア。北海道札幌市で育つ。18歳で起業しシステム開発の道へ。新入社員へプログラミングを教育する講師として、Yahoo JapanやUFJ銀行、日本生命をはじめとする企業でのべ1,000人以上のプログラマーを育成。2015年に池田市に移り住みプログラミングスクールの運営を開始、2017年に(特活)ロジカ・アカデミーを設立。2018年に池田市全公立小学校4年生のプログラミング教育を委託され、池田市を拠点にプログラミング教育事業を展開している。

#### <インフォメーション・問合せ先>

特定非営利活動法人ロジカ・アカデミー  
住所 / 563-0047 池田市室町4-49 COZY室町1F  
TEL / 072-752-8607  
HP / https://www.logica.academy  
Facebook / @logica.academy

#### <トピックス>

より多くの子どもがプログラミングを学べるように独学でもできる「ロジカドリル」を開発!主婦でもプログラミング教室の運営ができるようにと、独自のドリルとヒント集を開発。一つずつ丁寧に理解し、ロジカルシンキングを身につけていけるよう工夫が凝らされた問題集を使って、誰でも簡単にプログラミング教室を始められる仕組みを提供中。すべての子どもたちが公平にプログラミングを学べる環境作りを加速させていきます。



子育て期のママが社会で能力を発揮するには？  
ママ研での半年間から見えたこと

6人のママ達がトアエルで働き出して半年が過ぎました。子どもを育てながら働くなかで、彼女たちはどんな課題に直面して、どうやって仕事と家事と育児に励んできたのでしょうか。子育て中に安心して働き続けることができる、働き続けたいと思える職場環境にすべく試行錯誤してきたママたちに、リアルな体験や心の内を語っていただきました。

マ マも助かる家事のシェア、トアエル勤務がそのきっかけに

仕事をするにあたり、夫や子どもたちに「一人ひとりが積極的に家事をしようね」と伝えました。家事分担は教育の面でも家庭運営上でも大切なことなので、良いきっかけになりましたね。今は親しく挨拶できる来館者が増えて日々楽しく仕事が出ています。半年勤めて様々な庶務や事業に関わりましたが、1年在籍するころには全体的な事業のフローも体感できていると思うので、マニュアルを作成したりイベントごとの補助や発案も踏み込んでできるようになりたいです。情報発信も積極的にしていきますよー！みなさん、トアエルのフェイスブックぜひご覧ください。

マ ゲレンチェール 亜子



や りがい提案を受け入れてもらえる自由な雰囲気から

トアエル事務局から、人材不足・業務改善・PR力強化など課題があることを事前に教えていただいたので、「そのために何ができるか」と前向きな目線で各人が仕事をスタートできました。私自身は専門を活かして広報関係でお役に立てる機会が多く、やりがいを感じています。3～8時間という限られた時間で勤務ですが、質問や提案がしやすい雰囲気なので仕事に打ち込みやすいですね。今後は他のメンバーが本領発揮できるようにサポートをしていきたいです。トアエル貸室で中国語を学んでいるかと「你好！」と挨拶しあえるなど楽しく交流できているのも喜びです。子連れ出勤時め優しく見守ってくださる来館者がいらっしゃるのが分かります。それに比べられるように、トアエルで多様な可能性を体現できたらと思います。

や うえはら まり



も

も つとも重要なのはコミュニケーションだと実感

子育てだけでなく介護や病気等により『働き方の多様化』が求められていくなかで、トアエルママ研の取り組みは大きな一歩だったのではないのでしょうか。多様な働き方にはメンバー同士のコミュニケーションが重要です。今回のメンバーは以前からなじみ活用することでも当初から円滑なコミュニケーションが取れているのがすごくいいと思っています。現在はビジネスチャットに移行し、さらに情報共有がスムーズになりました。ママ研発足後は月に1回程度しか勤務できず正直申し訳ない気持ちも。ママ研に役立つクラウドサービス等の情報提供をしたりママ研ミーティングに参加することで、今後もお役に立てたらと思っています。

正井 聡美



か える場所がある、そのことが出産後の私を安心させてくれる

第二子の妊娠経過が順調だったこともあり、臨月まで働けてありがたかったです。日常業務がたまっていると「やったるぞー！」と燃えましたが、夫もママ研の取り組みや勤務形態を「いいね」と理解してくれています。無事出産した際に、ママ研や事務局のみなさんからおむつケーキで祝福をいただき嬉しかったです。今は新生活に慣れるのに精一杯でトアエル勤務をお休んでいます。直まだ「働きたい」という気持ちにはなっていないが、大変な毎日のなかでも「また働ける・帰れる場所がある」という事実が私を大きく安心させてくれています。もう少し落ち着いたら、お声をかけてもらえたらと思っています。

か 田中 尚子



か っこうが夏休みで子連れ出勤、来館者のかたが子どもに優しく接して下さった

トアエルは池田市関連団体なので夫からの信頼性も高く、「トアエルでパートするよ」と言う「いいね、よかったね」と言ってくれました。まだまだ子ども中心の生活なので、自分の予定に合わせシフトを申請できるようにして下さったのがとても助かっています。急なお休みの時にメンバーにヘルプするなど、常に連携できているのでやりやすいですね。夏休みで一緒に出勤した子どもたちはトアエルWiFiを利用して宿題後に動画を見るなど退屈せずに過ごせていました。来館者のかたに微笑ましく受け入れて下さっていたのが心に残っています。子どももトアエルを覚えて「今日はトアエルいくの〜？」と毎日聞いてくるので生活の一部になっていると思います。

か 長野 鈴子



く る方々がつながれる場に、赤ちゃん連れだからこそ利用者のためになる発案をしていきたい

赤ちゃん連れ出勤が多いなか、来館者のかたが「かわいいな〜」と愛でて下さったり、こいし歯科さんがベビーゲートを使わせて下さったりと皆さんのサポートがありがたいです。長男にも来館者が笑顔で話しかけて下さって、多世代交流が実現している！と嬉しくなりました。「赤ちゃんのママだからこそ」という想いで勤務しています。コミュニティセンタールームという想いで勤務しています。コミニティーセンターは子育て広場などで利用する親子も多くいらしゃるので、もっと気軽に、例えばオムツ替えや赤ちゃんとの休憩場所として立ち寄れる場所になったら良いな。もっと地域に愛され、つながりを生み出せる場所になる可能性をひしひしと感じています。多様性を尊重してくれるトアエルとママ研メンバーだからこそできることに挑戦していきたいです。

く 園部 佳子



マ マスタッフは、いまトアエルにとってなくてはならない存在

社会には力を発揮できていない優秀な人材が眠っています。ママはその代表と言えるのではないでしょうか。自由に仕事をしてもらうことで、モチベーション高く勤務いただけることになりました。これもママ同士で考えてもらうことにしました。これが功を奏したのか、各人が積極的に工夫しながら働かせることに挑戦していきたくです。

トアエル事務局長/谷田 成司

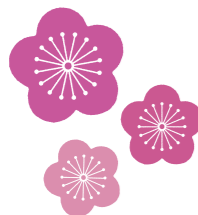


最終回にあたり

3回にわたってお送りしてきました『トアエルラボ・ママ研』の連載。トアエルを舞台にしたママたちと事務局の奮闘ぶりはいかがだったでしょうか。ママの雇用を考える企業やママ・パパ・ブレママ・ブレババさん、これから子どもが欲しいと思われている方など、紙面を御覧いただいた方々の新しい行動のきっかけになれたなら、こんなに嬉しいことはありません。

特集は一旦終了しますが、この研究は実践として続けていきます。また、お会いしましょう！

ママ研 一同



子育て期のママたちが仕事を通じて能力を発揮するためにトアエルで行ったこと

- 働く前にママスタッフ自身に働き方を考えてもらった
- 保育などの延長手当を制度化
- 近隣の事業者と協力を求め、駐車場やベビーサークルを無料提供いただいた
- シフト調整にクラウドカレンダーを活用し急な休みにも対応
- 業務日報の共有で各人の仕事が見える化
- ビジネスチャットアプリを活用した常日頃からの情報交換
- 定期的にトアエルラボ ママ研ミーティングを開催し意見交換
- WiFi環境を提供